



令和7年度 港区立高輪幼稚園経営計画

園長 佐々木 勝世

1 教育目標

人権尊重の精神に基づき、主体的に遊びや活動に取り組み、豊かに感じ、自ら学び考え、行動する幼児を育成するため、次の目標を設定する。

「やさしく、かしこく、たくましく、伸びる高輪の子」

- やさしく …生命を大切にする心、他者への思いやり、互いのよさを認め合い生かしかう協同性、社会生活における望ましい習慣や態度などを育む。
- かしこく …試行錯誤を楽しむ心もちや考える力、考えたことを表現する力、自分で判断し行動しようとする態度などを育む。
- たくましく…健康・体力につながる生活習慣の確立と進んで運動しようとする態度、物事に粘り強く取り組みやり遂げようとする意欲や意志の力を育む。
- 伸びる …身の回りの様々なことに興味・関心をもち、自らやってみようとする主体性を育む。

幼児一人ひとりに、自分のよさや可能性を信じ、多様な人々と協働しながら豊かな未来社会を切り拓くことができる力の基礎を培うことを本園のミッションとする。

2 目指す幼稚園

わくわく ぽかぽか みんな笑顔の高輪幼稚園

上記の教育目標を達成することは、国の掲げる「こどもまんなか社会」の実現につながると考える。そして、こどもまんなか社会は、子どもだけではなく、子どもを取り巻く人々、社会全体の幸福によって成り立つものである。

そこで本園は、幼稚園に関わる全ての人々（幼児、教職員、保護者、地域の方、外部講師、行政関係者等）が「わくわく、ぽかぽかし、笑顔になれる園」（＝[ウェルビーイング*](#)の実現）を目指す。

*身体的・精神的・社会的に幸せな状態。短期的で個人的な幸せではなく、より包括的で個人を取り巻く「場」が持続的によい状態であること。

わくわくする幼稚園

- 幼児の「これをしたい！」を引き出す

幼児の好奇心を刺激し、主体的な関わりを引き出す園庭環境、室内環境を工夫し、探究心に応える活動を幼児と共につくり出す。

○幼児の声を聞き、大切にすること

教師が願いをもって環境を構成し、活動を計画するように、幼児にも空間的・時間的環境への願いや実現したいことがある。遊びに限らず、園生活の全ての場面で、幼児が主体的に考え、提案し、教師や友達と共に実現する保育を実践する。

○理想を追求すること

教師自らが学びたいことを学ぶことができる環境を整え、一人ひとりの自己課題の解決を促進する。教師が自己の課題を自覚するとともに、教師間で悩みを共有し、解決策を共に考え、日々の教育実践を通して、一人ひとりが「自分の理想の教師像」に近付くことができるようにする。

○保護者、地域の方等の自己発揮を促すこと

幼児や教職員はもちろん、保護者、地域等にも様々な個性や能力、価値観をもった方たちがいる。保護者や地域の方等がそれぞれの持ち味を発揮できる機会を日々の教育活動やPTA活動、行事等でつくり出し、園の教育に携わることの喜びを感じられるようにする。

ばかばかする幼稚園

○誰一人取り残さず、その子らしさが輝く園生活を保障すること

幼児一人ひとりのその子らしさや持ち味が、友達、教職員、保護者等、幼稚園に関わる様々な人々に理解され、大切にされ、生かされる保育をデザインし、実現する。

○心理的安全性とチーム意識を確立すること

職場の心理的安全性（互いに話しやすい関係性）を確保し、全ての教職員が各々の持ち味、経験等を生かして本園の教育に関わることに喜びややりがいを感じ、チームとしてそれぞれの役割を果たし、協働し、生き生きと仕事に取り組めるようにする。

○人とつながる安心や喜びを感じられるようにすること

子育てに悩む保護者（未就園児保護者含む）への助言やサポート保育の実施等をとおして、保護者の安心や自己実現の支援につなげる。また、保護者や地域の方等が園に関わることで、幼児、教職員、保護者同士とつながり、「関わってよかった」「楽しかった」「役に立ててうれしい」などと思えるようにする。

みんな笑顔の幼稚園

○ウェルビーイングの深化を促すこと

「今が楽しい」という個人の短期的な幸せから、「友達や身近な人の幸せを願う」「自分たちの幼稚園や地域、世界をよりよいものにしていきたい」という共に生きる人々の持続的な幸せを願い、追求しようとする意識へと幼児の思いが深化していくようにする。具体的には、幼稚園修了前の幼児が以下のことを実感し、実践できるようになることを目指す。

♥ みんなが笑顔になれることを考え、実現するのは楽しい。

♥ 困ったことがあっても、身近なことは自分たちで変えられる、解決できる。

♥ 一人ではできないことでも、仲間と考えを出し合い力を合わせればできる。

そして、これらを園に関わる全ての人々とも共有する。

3 中期的経営目標と方策

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現

本園の特色である自然豊かな園庭環境を生かした多様な体験を取り入れるとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた3学年それぞれの時期にふさわしい教育活動を推進して、主体的・対話的で深い学びを実現する。

【方策】

- 保育の基本的な考え方を全教職員で共有する機会を意図的に設ける。

教師との信頼関係を基盤に、幼児が主体的に園生活に取り組む中で、新しい物事との出会いに好奇心を広げ、願いをもち、挑戦し、試し、工夫し、探究し、実現していく過程を大人が支え、励まし、共感することを大切にする。そのことを、職員会議、園内研究会、週案会等で繰り返し話題にして、教育活動や行事の内容・プロセスを見直し、改善を図る。

- 異年齢の交流をとおして互いに育ち合う教育を推進する。

園庭を中心とした幼児同士の自然な関わり合いを大切にするとともに、学年間の交流を意図的、計画的に取り入れ、園文化の創造や継承、あこがれや思いやりの心を育む教育につなげる。

- 年間指導計画の共有と見直しをする。

週打ち合わせや園内研究会等、3学年の教員が協議する場で年間指導計画を確認し、各学年各期の見通しや反省を共有する。

- 教師全員が「ためになる」「役に立つ」と実感できる園内研究会を推進する。

園内研究会を「教育の夢を語る場」とするとともに、課題が異なる教師がそれぞれの課題解決を図りながら、園の教育課題の解決につながるように、保育観察や協議等、研究方法を工夫する。

(2) 幼稚園、家庭、地域の相互連携による社会に開かれた教育課程の実現

家庭・地域社会に、様々な発信方法で園の教育内容を積極的に伝え、連携・協働した教育活動の充実と、日常的な評価と学校評価等を基にした教育課程の改善を図る。

【方策】

- 園の教育に対する保護者の理解を促進する。

保護者会や懇談会の持ち方を工夫し、園の教育活動への理解促進と、保護者同士の交流、情報・意見交換等の活性化を図る。また、保育参観等の機会を生かし、様々な個性をもつ幼児がいて、関わり合って育ち合うことを伝え、一人ひとりを生かす教育への理解を促す。

- 日常的な評価・反省を、教育活動の改善に生かす。

P T Aや学校運営協議会と連携し、保護者、地域の方から教育活動に対する意見・感想を日常的に収集し、学校評価まで待つことなく年度内に改善できることは随時改善していく。また、高輪地域ならではの取組や地域人材を生かした教育活動の更なる充実を図る。

4 令和7年度重点目標

(1) 開園50周年を契機として、教育活動の更なる充実を図る

幼児・保護者等の心に残る教育活動の工夫や、地域等と一体感をもった取組を推進し、園の歴史・文化の継承や教育活動の発展につなげる。

【具体的な取組】

○開園50周年のテーマの設定を設定し、テーマに沿った教育活動を展開する。

喜びや感謝、未来への希望といったテーマを幼児に浸透させるために、提示物や行事の工夫をするとともに、マスコットキャラクターを生かした活動を取り入れる。

○環境の見直しと改善を推進するとともに、環境教育の充実を図る。

幼児の好奇心を刺激し、探究心に応える環境を、園に関わる全ての人と共につくり出す。また、幼児が園庭の自然を愛し、大切にすることがもてる教育活動を展開し、SDGsと結び付ける。

○保護者、地域の方等と共に50周年を祝う取組を推進する。

P T Aや地域と連携して、園行事や記念式典、祝う会等の内容決定や運営に、園を取り巻く様々な方々が主体的に参加して、力を発揮してもらえるようにする。

(2) 国際理解教育を充実させる

園内外の教育資源を生かした取組を推進し、幼児の国際理解の意識の芽生えを培う。

【具体的な取組】

○身近な人や物事との関わりを通して、様々な文化に触れられるようにする。

季節の行事を通して日本の伝統文化に親しむとともに、外国にルーツをもつ幼児との日常的な関わり、保護者による外国の文化等の紹介や交流活動の実施、「ワールドコーナー（仮）」の掲示や展示などから、様々な国や地域の言葉・文化に関心をもったり、自分たちの生活に取り入れたりできるようにする。

○幼稚園N Tと連携した日常的な取組の充実を図る。

昨年度までの評価・反省や他園の取組、担当者会での情報等を参考に、N Tと幼児の遊びの中での自然な関わりと、学級活動での関わりが相乗効果を発揮するような取組を検討し、実践していく。保育後の打合せ、評価・反省を大切に、翌日以降の取組につなげていく。

(3) I C Tを活用した学びを充実させる

幼児の直接体験を重視しながら、I C Tの利点を生かした活用の工夫を模索し、主体的、対話的で深い学びの実現につなげる。

【具体的な取組】

○とにかく使う、試すことを積極的に推奨する。

昨年度までの取組の成果を共有するとともに、P D C AサイクルのD oから始まる実践も許容し、I C T機器を保育にどれだけ取り入れられるのかを試し、その評価を行い、有効な活用方法を見いだす。

○I C T活用担当を園務分掌に位置付け、組織的に活用を推進する。

担当者が中心となって情報収集をするとともに、職員会議、園内研究会、週打ち合わ

せ等で活用アイデアを出し合い、3、4、5歳児それぞれでの実践を促す。子ども自身がICT機器を使用した新たな取組についても、引き続き検討する。

(4) 園の教育の魅力発信と、地域の幼児教育センター機能を更に充実させる

園に関わる全ての人に本園の教育への理解や協力を得るため、また、区民に選ばれる園となるために情報発信を充実させるとともに、地域の未就園児やその保護者が安心して過ごすことができる場として園を開放したり、通常の保育時間終了後に子どもを安心して預けられる場としてサポート保育を実施したりし、区立幼稚園としての使命を果たす。

【具体的な取組】

○保護者会や懇談会の持ち方を工夫し、参加してよかったと思える会にする。

幼児の活動の様子を写した映像とともに教育内容について解説するなど、園からの発信を分かりやすく行い、保護者が知りたいことが分かるようにしたり、保護者同士が気軽に情報や意見を交換したりできるようにする。保護者の理解や満足度を高めることで、園の魅力の発信者となってもらう。

○園・学年だより、ホームページ・X等による発信を工夫する。

本園の教育の価値や魅力を、写真等を用いて分かりやすく伝えることで、園に関わる全ての人から信頼と積極的な協力を得られるようにするとともに、地域の未就園児保護者に、本園への入園を検討してもらえようとする。

○未就園児の会の内容をより充実させるとともに、発信方法についても工夫する。

講師やPTAと協力して、内容の充実を図るとともに、活動の様子をホームページ等で発信したり、近隣区有施設に管理職が出向いて紹介をしたりするなどして、参加者が増えるようにする。

○幼児の生活リズム等を考慮しつつ、より充実したサポート保育を実施する。

預かり保育担当教員を中心に活動内容や運営方法を工夫し、異学年の交流やその日の出来事の振り返り等、サポート保育の時間にも園の教育につながる体験ができるようする。

(5) 教職員の働き方改革を推進する

教育活動の円滑な遂行や更なる充実のため、教職員の心身の健康の保持を目的に、働き方改革を着実に進める。

【具体的な取組】

○教職員からアイデアを募って、効果を実感できる取組を推進する。

定時退勤や平日の年休取得を推奨し、それを実現するために園長や主任による補教、ノンコンタクトタイムの設定、教職員間の協力の推進、役割分担の見直し等の取組を進める。教職員の負担感を把握するほか、アイデアを募って実践し、効果を確認していく。加えて、長期休業期間中のリモートワークを推奨する。